

平成 18 年 8 月 7 日

各 位

香川大学医学部広報情報室長

波多江 種 宣

香川大学医学部附属病院「地域医療情報連携システムの標準化及び 実証実験事業」計画に着手

周産期電子カルテ・モバイル胎児心拍転送システムの統合

4 地域実証モデル実験から全国へ

香川大学医学部附属病院医療情報部長 原 量 宏 教授を中心とした医療情報グループは、この度、経済産業省が推進する治療経過を電子データで記録する「電子カルテ」を複数の病院間で共有するためのシステムづくりに着手いたしました。

名古屋市の約三十の医療機関の電子カルテシステムを相互に接続し、緊急治療が必要な脳卒中患者を対象に、患者情報のやりとりを行う脳卒中医療を対象とする閉域型地域医療情報連携システムの構築と実証を行います。

また、香川県、岩手県、東京都及び千葉県など 4 地域の医療機関で、それぞれ地域内の十前後の産婦人科医院とシステムを連携し、流産の危険性が高い妊婦の情報を共有する周産期医療を対象とする開放的地域医療情報連携システムの構築と実証を行います。

実証実験事業期間は、平成 18 年度～平成 20 年度の 3 年間、予算は 1 億 6 千万円（平成 18 年度は、8 千万円）の予定です。

今後、「電子カルテの共有化」が促進され、病院の相互間接続が可能になり、重複検査・診療による医療費のムダを省く等に役立つことが期待できます。

本件問い合わせ

香川大学医学部附属病院

医療情報部長・教授

原 量 宏

TEL 087-891-2380

